

日々進歩する現代医療技術。一方で、古くから伝わる東洋医学や、新しいコンセプトの健康維持増進法もたくさんある。この二つの分野にジャピオンが関与を迫る。

今週のトピック 超音波による骨折加速治療

## 1日20分の自宅治療で 治療時間を40%も短縮

### 新しい骨折にも効果

骨折をすると、場所にもよるが平均8週間はギブスに松葉杖の不便な生活を強いられる。しかし、骨折部位に超音波を毎日20分当てるだけで、骨がぐっくまでの期間を平均40%も短縮できる。画期的な治療補助器具が登場し、特にスポーツ選手やダンサーなど、1日も早く運動を再開したい人に喜ばれている。



新しい骨折への効果が認められた初の骨折治療補助器具「エキソジェン4000プラス・ボーン・ヒーリング・システム (EXOGEN4000+ Bone Healing System)」。昨年7月にFDAから承認され、今年から使用が本格化した。(写真提供: Smith & Nephew's)

新製品の「エキソジェン4000プラス・ボーン・ヒーリング・システム」は、低出力超音波パルスが「ドアをノックする」ように骨折部位を刺激し、体の自然治療力を増進する携帯型医療器具。骨折は、患部に炎症反応が起きる炎症期、新しい柔らかな骨が形成され、硬く強くなる修復期、骨が少しずつ元の状態に修復されるリモデリング期の4つの段階を経て治る。林先生

【お話を聞いた先生】



林美香先生  
(はやし・みか)

■足病形成手術専門医師。ニューヨーク足病科大学卒業、セント・ビンセント病院足病外科・医科研修修了。これまで500件以上の骨折、皮膚移植、壊疽などの足の手術を手がけた。糖尿病患者の壊疽予防検査、床ずれ治療にも力を入れる。日本語、英語、スペイン語による診察可。

によると、新製品は、全過程の治療を少しづつ早める働きがあるという。

特長は大きく2点。まず、骨折してすぐの治療にも効果があることで、医療器具としては唯一、米食品医薬品局 (FDA) に認められている。従来の器具は、3カ月経っても治癒しない難治性骨折や、数カ月気づかず古くなった骨折、また何らかの理由で手術ができない、高齢者や糖尿病患者など免疫力が弱く、炎症を絶対的に避けなければいけない人たちに使用が限られていた。一方、新製品は骨折治療に欠かせない「成長因子」を活性化することで、本来は不可能とされてきた、健常者の新しい骨折の治療期間短縮を初めて実現した。

第2に、従来は1日10時間以上の治療が必要だったが、新製品は1日20分、皮

膚の上から当てるだけで、利便性も向上した。

補助的治療は18歳から

新製品は現在、18歳以上を対象に、頭蓋骨と脊椎以外の骨折への使用が承認されている。超音波は医療分野で安全に使われており、深刻な副作用は報告されていないが、心臓ペースメーカー利用者は器具の干渉を避けるため、事前に主治医に相談する。同じ理由で、携帯電話も治療中20分は使用を控えたい。

(大村智子)